

平成24年第4回大仙市議会定例会

# 市 政 報 告

平成24年11月29日

大仙市長 栗林次美

本日、平成24年第4回大仙市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、ご参集いただき誠にありがとうございます。

今次定例会でご審議をお願いいたします案件は、専決処分報告1件、人事案1件、条例案13件、単行案16件、補正予算案10件の合計41件であります。

なお、会期中に準備が整い次第、新たに実施する低炭素建築物の計画認定事務手数料に係る条例案1件、大曲庁舎・互助会館耐震補強及び改修工事の変更契約に係る単行案1件、公共施設再生可能エネルギー等導入推進事業などに係る補正予算案1件を追加提案する予定であります。

各案件につきまして、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

それでは、この場をお借りいたしまして、主要事業の進捗状況等についてご報告申し上げますが、始めに、冬期間の雪対策についてご報告いたします。

気象庁が11月22日に発表した東北地方の3カ月予報では、今冬の東北日本海側の降雪量は平年並みとなる確率が40%と最も高い確率となっておりますが、ここ2年間を見ますと、平成22年度は豪雪となり、23年度もまとまった積雪となっております。

市といたしましては、平成22年度の豪雪などを教訓とし、除排雪体制や雪害を含めた防災対策の見直しを進めており、本年度においても、市民や事業者の協力を得ながら、国・県とも十分に連携し、万全な体制で冬期間の雪対策に取り組んでいくこととしております。

道路等の除排雪対策につきましては、本格的な降雪期を前に、11月13日に除雪出動式を行い、既に除雪機械等の配備を完了したほか、除雪路線の確認やスノーポールの設置、消融雪設備の点検なども終了しており、降雪時には、除雪事業者等との連絡を密にし、児童生徒の通学路の安全確保等に十分配慮しながら、迅速な対応に努めてまいります。

空き家対策につきましては、昨年度は、制定した空き家等の適正管理に関する条例に基づき、積雪により倒壊の危険がある倉庫や資材置き場などの撤去を行っておりますが、本年度も引き続き、危険箇所のパトロールや危険度調査を

行い、倒壊により住民に危険が及ぶ恐れがある場合には、撤去も含めた対策を検討してまいります。

高齢者世帯等の雪対策につきましては、道路除雪による自宅玄関前の雪の塊を取り除く高齢者等除雪サービス事業を継続するほか、昨年度に引き続き、町内会等の除雪ボランティアを行う団体に小型除雪機を貸し出す取り組みなどを行うこととしております。

ゼロ予算事業として昨年度から実施している「雪下ろし技能講習会」につきましては、大曲仙北職業訓練協会及び大曲仙北建設技能組合連合会との共催により、12月19日に開催の予定であり、多くの市民に参加していただき事故防止に繋がりたいと考えております。

それでは、各部局ごとの主要事業の進捗状況等についてご報告させていただきます。

始めに、総務部関係についてであります。

本年度の職員採用試験につきましては、各職種合わせて223人の申し込みがあり、第1次・第2次試験の結果、最終合格者を一般行政事務12名、上級建築1名、上級土木1名、職務経験者7名、臨床心理士1名、一級建築士1名の計23名としております。

また、大曲仙北広域市町村圏組合消防職員の採用試験につきましては、各職種合わせて116人の申し込みがあり、採用候補者の登録者数は、上級消防7名、初級消防9名、初級救命1名の計17名となっております。

東日本大震災の被災地・被災者支援につきましては、震災発生直後の消防緊急援助隊への参加や、ボランティア活動支援拠点施設「だいせん応援ハウス」の設置、被災者の「大曲の花火」への招待、災害廃棄物の受け入れなど、市が行った支援活動を総括するとともに、市民や民間団体が独自に行った様々な支援活動を取りまとめ、この震災による経験を今後に伝えていくため、この度、記録誌「東日本大震災オールだいせん被災地・被災者支援の足跡」を作成し関係機関等に配布しております。

この記録誌の発行を機に、市民一人ひとりの「絆」や「助け合い」の精神が

一層深まるとともに、市が現在取り組んでいる地域防災計画の見直しや自主防災組織の育成などにより、市民の皆様が安心して暮らせる「災害に強いまちづくり」を前進させたいと考えております。

また、10月30日には大曲市民会館を会場に、市と包括連携協定を結んでいる秋田大学の主催による「地震災害における防災人育成シンポジウム」が本市との共催で開催され、作家の西木正明氏や岩手県遠野市の本田敏秋<sup>ほんだとしあき</sup>市長による基調講演のほか、本市の被災地支援活動の経験を活かした地域防災力向上をテーマとしたパネルディスカッションが行われております。

市役所大曲庁舎の耐震改修につきましては、8月に耐震補強工事が始まり、現在、庁舎全体に足場が組まれ、耐震補強の下地処理やサッシの取り替えなどを行っているところでありますが、補強される柱のコンクリートの一部に工事の支障となる箇所が発見され、工事内容等を変更する必要が生じたので、この後の議員全員協議会で説明させていただくこととしております。

また、耐震補強工事と併せて行っているエレベーター設置工事については、12月中に完了し来年1月から供用を開始する予定であり、来庁者の利便性向上に寄与するものと考えております。

なお、大曲武道館の耐震補強工事については、大曲庁舎の工事期間と重ならないよう、平成26年度の実施を予定しているほか、本年度実施した耐震診断で補強工事が必要とされた協和庁舎と仙北庁舎については、来年度に耐震補強工事の実施設計を行い、平成26年度に工事を実施する予定としております。

次に、企画部関係についてであります。

大曲通町地区市街地再開発事業の建設工事につきましては、現在、新病院建設予定地が10m程度掘り下げられ、主に病院棟の基礎・躯体工事が進められているほか、バス待合棟と高齢者福祉棟の杭工事も行われております。11月末での病院棟の工事出来高は7.5%と見込まれ、ほぼ予定通りの進捗状況となっております。

荒川鉦山跡地の保存と利活用につきましては、昨年に協和地域で開催された「第2回秋田県鉦山サミット」などにおいて、鉦山跡地の利活用等について情報交換を行っておりますが、市としても、地域の産業遺産である荒川鉦山跡地

の歴史的価値を再確認し、今後の適正保存と利活用に繋げていくため、「荒川鉦山跡地歴史保存活用構想」を策定することとしており、学識経験者や地域住民を含む検討委員会を組織し、9月から会議や現地視察を行うなど、年度内の構想策定を目指し作業を進めております。

男女共同参画の推進につきましては、市民への啓発を目的に実施した男女共同参画に関する写真・一行詩コンクールに、写真19点、一行詩482点の応募があり、入賞作品20点を「秋の稔りフェア」で展示したほか、市広報などで紹介しております。

また、11月17日には、仙北ふれあい文化センターを会場に「男女共同参画都市宣言5周年記念事業～ともに輝く～」を開催し、同コンクールの表彰式や市民有志による寸劇、デートDVをテーマにした記念講演、各世代の代表者による「お茶の間トーク」などを行い、多数の方々に参加いただいております。

市が男女共同参画都市を宣言して5年目となりますが、市民一人ひとりが互いに人権を尊重し支え合うことの大切さを改めて感じており、今後も、様々な世代や団体などに働きかけ、あらゆる場面・分野における男女共同参画の実現を目指してまいります。

携帯電話の不感地帯解消を図る移動通信用鉄塔施設の整備につきましては、南外地域上巣ノ沢・桑台地区の鉄塔整備が来年1月に完了の予定であり、今次定例会に鉄塔設置に係る条例の一部改正案を上程しております。

次に、市民部関係についてであります。

夏季の節電につきましては、5月に大仙市節電対策基本方針を策定し、9月末までを期間とし取り組んでまいりましたが、大仙市の最大使用電力は、一昨年のピーク時点との比較で10.0%の削減となったほか、市の主要施設における電気使用量の削減率が一昨年比22.9%となるなど、市民の皆様からのご協力をいただき目標を達成しております。

なお、節電への取り組みを継続していくため、冬季においても、12月から3月を期間とする節電対策基本方針を策定しており、12月の地球温暖化防止月間には、小・中学校、高校の児童生徒、市民及び事業者等を対象に、参加者

1万人以上を目指し、冬の節電アクションを実施するなど、引き続き、無理のない範囲での節電をお願いしてまいります。

新火葬場の建設につきましては、発注者となる大曲仙北広域市町村圏組合において、基本設計業務の業者選定が行われておりましたが、10月1日に、市内の有限会社<sup>たて</sup>館設計を含む「山下・館・小畑設計共同企業体」と業務委託契約が締結され、現在は設計内容の協議が進められております。

災害廃棄物の広域処理につきましては、可燃物の本格受け入れ開始から7か月以上が経過しましたが、定期的な放射性物質濃度の測定結果では、いずれも基準値を大きく下回っており、順調に処理が進められております。

なお、これまで原則県内での処理を目指し国等により調整が行われていた岩手県の不燃混合物について、10月26日に国から秋田県に対し、野田村の約1万8,000tの受け入れ調整の要請があったところであります。これを受け、県では、既に受け入れを表明している仙北市と調整を行うとともに、同市だけでは処理できないと見込まれるため、協和地域の県環境保全センターや民間処理施設を活用する方向で調整していくこととしております。

市といたしましては、こうした県の意向を踏まえ、地域住民や市民の皆様のご理解を得た上で、県による環境保全センターでの受け入れに協力してまいりたいと考えております。

東日本大震災の被災者を対象とした医療費自己負担分の免除につきましては、国による国民健康保険事業に対する免除費用の全額補填措置が9月末で終了しましたが、市では、被災者の現状等から震災後3年間は支援が必要であると判断し、本市に転入し国保被保険者となっている方々の自己負担免除を、平成26年3月までを期間とし、10月以降も継続しております。

不法投棄の防止につきましては、10月23日に神岡地域宇留井谷地地区、10月31日と11月2日に西仙北地域の強首地区及び土川地区において、大仙保健所や秋田県産業廃棄物協会、地域住民との合同により不法投棄物の撤去作業を実施し、不法投棄物2.7tを処理しております。

なお、市では不法投棄監視員によるパトロールを強化するとともに、監視カメラの設置などにより不法投棄の抑止に努めており、今後も関係機関等と連携し不法投棄の根絶を目指してまいります。

特定外来生物の駆除につきましては、県の緊急雇用創出臨時対策基金を活用し、市内の湖沼等24カ所において、オオクチバスとウシガエルの駆除を重点的に行い生態系の保全に努めております。

交通安全対策につきましては、10月16日に西仙北地域において第4回交通安全推進集会を開催し、県警カラーガード隊や各地域の交通安全関係団体など約450人による啓発パレードのほか、誓いの言葉の朗読や秋田弁護士会のくさなぎひでき草薙秀樹氏による講演などを行っております。

防犯対策につきましては、「みんなでつくろう安心の街」をスローガンに、全国地域安全運動の出発式を10月10日に大曲市民会館駐車場で開催し、市内各地域で車・自転車の施錠を確認するロックパトロールや鍵掛け励行運動などの啓発活動を行っております。

次に、健康福祉部関係についてであります。

認知症対策につきましては、認知症予備軍の早期発見と早期治療に向けた仕組みを構築するため、平成22年度からタッチパネル式パソコンを使用した「物忘れ相談プログラム」を導入し、このプログラムに基づく「脳すっきり検査」を実施しており、本年度は、太田地域の高齢者を対象に9月3日からの4日間で検査を実施し、50人の参加者の中で物忘れが始まっている可能性があるとの結果が出た11名に、医師への相談を勧めております。

この事業は、3年間の実施結果を分析し、来年度以降の認知症対策に活かしていくこととしておりますが、県では認知症専門の治療・相談機関となる「認知症疾患医療センター」を来年度にも県内医療機関に設置する方針を示しており、こうした県の施策とも連携してまいりたいと考えております。

なお、市民に認知症に対する理解や関心を深めていただくため、「秋の稔りフェア」に「物忘れ相談プログラム」の体験コーナーを設けており、2日間で114人の方が検査を体験しております。

敬老会につきましては、9月3日から19日までに市内各地域の15会場で開催し、対象者の約3割にあたる4,720人の方々に出席をいただき、それぞれ盛会裏に終了しております。

金婚式につきましては、10月24日に、ふれあい文化センターを会場に開

催し、結婚50年を迎えた86組のご夫婦を祝福しております。

市が支援している大曲南保育園の移転改築につきましては、9月24日に工事請負契約が締結され、来年11月の完了予定となっております。開園は平成26年1月に予定され、保育環境の向上に資するものと考えております。

また、仙北地域のみどり幼稚園と仙北南保育園においては、保護者の就労形態にかかわらず、子どもに保育と教育の機会を提供できるよう、来年4月からの幼保連携型認定こども園としての開園に向けた準備が進められております。

自殺予防対策につきましては、9月8日に中仙市民会館ドンパルを会場に、心の健康や命の大切さ、自殺予防をテーマにした「こころといのちを考える集い」を開催し、市民など約230人の参加をいただいております。

予防接種事業につきましては、予防接種法の改正に伴い、9月1日からポリオの予防接種が、生ワクチンから不活化ワクチンに切り替わり、市内の受託医療機関で個別接種が行われております。また、これまでは、ジフテリア・百日咳・破傷風の3種混合ワクチンとポリオワクチンが別々の接種となっておりますが、11月1日からは、これらを一体にした4種混合ワクチンとして一緒に予防接種を行うことになっております。

次に、農林商工部関係についてであります。

稲作につきましては、10月15日現在の農林水産統計では、全国の作況指数は「102」のやや良、秋田県と県南はいずれも「100」の平年並みと発表されているほか、JA秋田おぼこの取りまとめによる大仙市の一等米比率は93.5%と、過去5年間の平均より1.3ポイント高くなっております。

また、米の出荷時にJAから農家に支払われる仮渡金は、8年ぶりに60kg当たり1万4,000円台に回復し、1万4,300円となっております。

米の放射性セシウム検査につきましては、9月3日から11日にかけて、市が独自に水田64カ所の空間放射線量の検査を実施いたしましたが、通常レベルを超えた放射線量は検出されておられません。また、9月13日から18日にかけて旧市町村単位8カ所で実施された県の検査においても放射性物質は検出されなかったことから、大仙市産の米の安全性を確認し、安全が確認された旧市町村単位に順次出荷・販売等の自粛要請を解除しております。



大仙農業元気賞につきましては、10月16日に開催した選考委員会において、本市の農業を担う若きリーダー3名を受賞者に決定し、12月21日に表彰式を行うこととしております。

国営事業となる田沢二期農業水利事業につきましては、本市を含む2市1町の4,697haの受益地に安定的に農業用水を供給するとともに、併せて地区内の生活用水・防火・景観・親水等の用水機能の増進を図るため、平成23年度から31年度までの9カ年を事業期間とし、総事業費約160億円をかけ、頭首工や幹線用水路等60kmを整備する計画となっております。

昨年9月、事業を実施するため市内に田沢二期農業水利事業所が開設されており、本年度は、大仙市関連として太田地域惣行地内で暗渠工事約400mが実施されております。

畜産振興につきましては、5年に1回開催される全国大会、全国和牛能力共進会が10月25日から長崎県で行われ、神岡地域の秋田県畜産試験場で飼育されている県有種雄牛「義平福」<sup>しゅうゆうぎゆう よしひらふく</sup>を父とする県産牛が、3頭一組で肉質を競う部門で県として過去最高の全国2位となる優等賞2席を受賞しており、今後の県産牛のブランド確立と一層の生産拡大を期待しているところであります。

なお、本市から県代表として出品された繁殖牛2頭は、2等賞1席を受賞しており、出品した2名の方も功労者表彰を受けております。

サケのふ化事業につきましては、現在サケの採捕<sup>さいほ</sup>を行っており、昨年同様、海水温の上昇等の影響により遡上が少ない状況となっておりますが、今後、220万尾ほどのふ化と稚魚の放流を計画しております。

各地域の秋まつりイベントにつきましては、10月27日・28日の両日、大曲体育館や市役所駐車場、大曲市民会館などを会場に、「大仙市秋の稔りフェア」を開催し、特産品の直売や商工展示、芸術文化活動の発表などが行われたほか、昨年に引き続き、復興を支援している宮古市からサンマ1,000匹が提供されたことから、炭火焼きコーナーを設けるなど、多くの市民に稔りの秋を堪能していただいております。

また、10月14日に「協和ダム美山湖フェスティバル」、10月20日・21日の両日に「ジャンボうさぎフェスティバル」、「太田の秋まつり」、「かみおか地域文化祭」、「きょうわ祭」及び「仙北公民館まつり」、10月

27日・28日の両日に「にしせんぼく文化祭」、11月3日に「なんがい地域祭」を開催しており、いずれも盛会裏に終了しております。

秋田デスティネーションキャンペーンにつきましては、来年秋の本番に向けプレキャンペーンが実施されており、9月29日には、オープニングイベントとして東京のJR有楽町駅前などで開催された「ふるさと秋田まつり」に参加し、市の観光・物産のPRを行っております。

また、10月17日に、秋田市で全国宣伝販売促進会議が開催され、全国の旅行エージェントやJR各社のツアー関係者など約600人を招待し、秋田の魅力プレゼンテーションしておりますが、市からも大曲の花火や旧池田氏庭園をはじめとする、歴史や文化、自然等の観光資源を紹介しております。

なお、本年度の旧池田氏庭園の秋の一般公開については、観光や地域振興を目的に、昨年より11日長い10月20日から11月11日までの23日間を公開期間として実施いたしました。あいにく雨天が続きましたが、期間中約1万2,000人もの方々に美しく色づいた庭園をご覧いただいております。

北九州市で開催された第7回B-1グランプリにつきましては、10月20日・21日の両日に、約60万人の来場者の中、大曲商工会議所青年部を中心に組織された団体が「大曲納豆汁」を出展しており、初出場のため会場でのPRなどに苦戦したものの、2日間で約4,000食を提供しております。残念ながら入賞は逃しましたが、出展の様子がメディアで大きく取り上げられるなど、今後の地域振興に繋がっていくことを期待しております。

来年3月高校卒業予定者の就職状況につきましては、ハローワーク大曲の集計では、10月末現在で、就職希望者は昨年より52人多い381人、このうち内定者は244人、就職内定率は64%と昨年同期との比較で5.3ポイント減少しております。各高校からは、引き続き未内定者に対する進路指導を積極的に行っていくと伺っております。

また、本市と、ハローワーク大曲、県仙北地域振興局、仙北市及び美郷町で構成される仙北地域雇用促進連絡会議が、10月17日に新規高卒者就職面接会を開催しており、参加31事業所が、市内の高校を含む13校62人の生徒と面接を行い、11月20日現在15名が採用の内定を受けております。

なお、さらなる地域雇用を掘り起こすため、12月7日に一般求職者と新規

卒業者を対象とする就職面接会を開催する予定であり、今後も各高校や関係機関と連携し求職者の早期就労に結びつけたいと考えております。

企業対策につきましては、11月21日、5回目となる「大仙市首都圏企業懇話会」を開催し、本市出身の企業関係者や進出済み企業の本社などから27名、そのほか、ふるさと会、市内商工団体、市議会議員の方々にも参加いただき、本市出身で大腸内視鏡検査・手術の権威である昭和大学医学部の工藤進英教授の講演のほか、参加企業の現状などについて情報交換を行っております。

第50回技能五輪全国大会につきましては、10月26日からの4日間、長野県で開催され、建築大工部門に秋田県代表として本市在住の2名を含む3名が出場しております。この大会は出場資格が23歳以下と規定され、若手技術者の修練の場として高い技能レベルが求められておりますが、昨年、県として25年ぶりに入賞した中仙地域の渡部敦史わたなべあつしさんが、2年連続で全国2位となる銀賞を受賞しております。

大仙市技能功労者表彰につきましては、11月27日に表彰式を行い、管工事、建築板金、建築大工及び和服仕立の4分野において、5名の方々を表彰しており、和服仕立の分野で表彰された伊勢正和いせまさかずさんは、県主催の秋田県優良技能者表彰も同時に受賞しております。

次に、建設部関係についてであります。

都市計画道路中通線の整備につきましては、来年度の一部区間の供用開始を目指し、JRアンダーパス部分を含めた延長451mの道路築造及び舗装工事を進めているほか、駅東線までの中通線街路整備事業については、用地買収7件及び建物等移転補償5件の権利者と契約済みであり、残る5件は来年度の契約を予定しております。

また、土地区画整理事業に伴う区画道路新設工事、街区整地工事及び下水道工事については、全て発注済みであり、建物移転補償については、本年度予定の12戸のうち11戸の権利者と契約済みで、残る権利者とも現在交渉を進めております。

大曲駅から新病院前までを区間とする大曲駅前通り線の歩道無散水融雪設備工事につきましては、来年度の一部工事着手を目指し、路線測量及び融雪設備

の実施設計業務を発注しております。

社会資本整備総合交付金事業の南外1号線につきましては、本年度、延長800mの盛土工事を予定しておりましたが、国土交通省との協議を踏まえ地質等の調査資料を基に工事内容を再検討した結果、現行の計画ルートでは軟弱地質の改良に多額の事業費を要することが判明したことから、現道を活用したルートに工事内容を変更し、本年度は延長約200mの道路改良工事を行うこととして、今次定例会に予算の減額補正をお願いしております。

市単独道路事業につきましては、本年度実施予定の各地域42カ所の道路工事、道路改良工事に係る設計・測量等の業務委託及び用地補償について、33カ所が完了し、8カ所が発注済みとなっております。

市が管理する街路灯などをLED化するESCO事業につきましては、LED灯への交換が順調に進み、間もなく予定していた全ての作業を終了する見込みとなっております。

第3回市議会定例会で予算の補正を議決いただいた凍上災害の復旧工事につきましては、10カ所のうち7カ所が発注済みであり、残る3カ所も発注準備を進めております。

住宅リフォーム支援事業につきましては、4月に発生した暴風被害を補助対象に加えたことなどから、既に当初予算額の6,000万円を超える申請を受けており、市民ニーズに迅速に応えるため予備費を充当し対応しております。

この事業は、10月末現在の実績が、申請件数440件、補助金額にして6,176万円となっているほか、対象事業の総工事費が9億968万円に上り、市民に対する支援としてだけでなく、経済対策としても寄与しているものと考えていることから、昨年度までの冬期間の実績を踏まえ、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

次に、国、県関係工事についてであります。

雄物川中流部の河川改修事業につきましては、西仙北地域の強首地区については、木原田樋門が完成し、築堤等の工事が進められております。寺館大巻地区については、強首第三樋門が完成し、今後、築堤等の工事が予定されているほか、大巻樋門の工事が進められており、十二の木樋門の工事は今後実施予定

と伺っております。

南外地域の西板戸地区については、西板戸第二樋門及び築堤護岸等の工事が進められており、新規事業となる協和地域峰吉川については、中村・芦沢地区の揚水施設の設計業務、岩瀬・湯野沢地区の築堤に係る調査設計業務が実施されております。

なお、現在の経済情勢を踏まえ、10月26日に「経済危機対応・地域活性化予備費」の活用が閣議決定され、本市管内における雄物川中流部の河川改修事業に、12億7,900万円が配分されております。この配分により、現在実施中の各事業の進展と中流部の一体的な整備促進を期待しているところであります。

国道13号関連につきましては、神宮寺バイパス事業については、年度内の全線暫定2車線供用を目指し、残る2.4kmの北檜岡から宇留井谷地地区の改良・舗装工事が行われているほか、峰吉川交差点改良についても、年度内完了を目指し、9月中旬から工事が進められております。

また、玉川橋の下り線側の床版補修工事については、床版部の損傷が著しく補修箇所が増えたことにより、通行規制が11月22日から来年3月29日まで延長されております。降雪期を迎え、今以上に朝夕の混雑が予想されますが、橋の安全確保と長寿命化を目的とした工事でありますので、ご理解をお願いいたします。

県関連事業につきましては、大曲橋の架け替えについては、橋梁上部工工事が引き続き進められており、取り付け道路を除く橋梁部分は年度内の完了を予定していると伺っております。また、主要地方道角館六郷線の太田地域伊勢堂地区の歩道整備事業については、11月20日に事業計画の地元説明会が開催され、今後、用地補償などを進めていく予定と伺っております。

次に、上下水道部関係についてであります。

上水道事業につきましては、大曲地域佐野町地内の配水管改良工事は、10月下旬に完了し供用を開始しており、緑町地内の配水管新設工事は、9月上旬に発注を終え12月上旬には完了の予定となっております。

県の大曲橋架け替えに伴う関連工事につきましては、河川敷内での既設取水

施設の取壊撤去工事を9月上旬に、大曲橋に添架した配水管と既存の配水管を繋ぐ配水管布設工事を11月中旬にそれぞれ発注しております。

大曲駅前第二地区土地区画整理事業に伴う配水管移設工事につきましては、本年度予定している工事4件のうち3件が発注済みであり、残る1件の発注を12月上旬に予定しております。

簡易水道事業につきましては、市営強首地区簡易水道から九升田地区への配水管延長工事を9月上旬に発注しており、12月下旬の供用開始に向け工事を進めております。

公共下水道事業につきましては、9月上旬に中仙地域で1件、9月下旬に南外地域で2件の管渠工事を発注しております。

農業集落排水事業につきましては、10月中旬に大曲地域角間川地区において真空式管路施設工事1件を発注しております。

次に、教育委員会関係についてであります。

子どもたちの心を育む学習の推進につきましては、9月25日に大曲市民会館を会場に、大曲青年会議所創立40周年記念事業として開催された「OMO I Y A R I（おもいやり）音楽会」に、市内全ての小学6年生が参加し、歌手の藤田恵美ふじた えみさんの歌を鑑賞したほか、手話を交えた合唱などを通して、思いやりの心を持つことの大切さを学んでおります。

また、東日本大震災の被災地との交流活動として、大仙市中学生サミット「本でつながるプロジェクト」が実施され、10月10日に、市内の各中学校の生徒代表22名が、各中学校で集めた図書312冊を、応援メッセージと神岡小学校の児童が作成した葉を添えて岩手県大船渡市の赤崎中学校に届けております。そのほか、太田中学校や平和中学校が岩手県大槌町の大槌中学校や吉里吉里きりきり中学校との交流を続けるなど、活動の輪が広がっております。

授業研究等につきましては、大曲中学校が平成21年度から22年度まで国立教育政策研究所の指定校として体育・保健分野の指導方法の研究に取り組んできましたが、その継続研究の実績が認められたことから、同校が平成24年度の全国学校体育研究最優秀賞に県内の学校として初めて選ばれ、文部科学大臣から表彰状が贈られております。

県外からの視察等につきましては、教員の人事交流が縁で実現した沖縄県糸満市の「学びの体験事業」が実施され、10月15日からの3日間、糸満市の小・中学生36名と教員等の関係者14名が、花館小学校と仙北中学校を訪れ授業に参加しております。

なお、9月以降も県外からの視察は増えており、現在までの集計では、予定を含めて53団体545名の実績となっております。

P T A活動につきましては、9月23日に、大仙市P T A連合会の第10回研修会が実施され、市と「国際交流に関する連携プログラム協定」を締結している国際教養大学なかじまみねおの中嶋嶺雄学長を招き、グローバル化、人材育成、英語教育等をテーマとした講演が行われたほか、11月28日の第11回研修会では、環境教育に取り組んでいる藤木小学校の視察が行われております。

西部学校給食センターの建設につきましては、指名型プロポーザル方式により基本設計業務の業者選定を行い、10月11日に、市内の株式会社長岐建築設計事務所を含む「村田・長岐設計共同企業体」と業務委託契約を締結しております。今後は、来年度に実施設計や基礎工事を開始し、平成27年度の供用開始を予定しております。

なお、新センター建設にあたっては、災害発生時などにも可能な限り設備を稼働させることができるように、太陽光発電などの新エネルギー設備の導入も検討してまいりたいと考えております。

給食食材等の放射性物質の検査につきましては、食の安全・安心を確保するため、市が独自に検査機器を導入し8月28日から検査を開始しており、10月末までに、給食のほか保育所等の依頼により持ち込まれた134の検体を検査しておりますが、放射性物質は全ての検査で不検出となっております。

また、3月26日から実施されている県の検査にも、市内の保育所等から食材が持ち込まれており、10月末現在、121の検体全て不検出となっております。

学校給食の試食会につきましては、昨年に引き続き、10月15日から4小学校、3給食センターで実施しており、参加した保護者からは、味付けや健康への配慮、地元産食材の使用などに概ね良い評価をいただいております。

生涯学習の推進につきましては、10月6日・7日の両日に、プロ棋士を招

いて大仙囲碁フェスティバルを開催し、市民交流囲碁大会や子ども囲碁大会を行っており、子どもたちには対局成績に応じて、日本棋院から級位の認定状が交付されております。

また、11月8日から11日には、西仙北地域で東北将棋大会が開催され、学生大会に東北の6大学から55人、市長杯争奪戦の各部門に県内外から90人が参加し、それぞれ熱戦が繰り広げられたところであります。

芸術文化関係につきましては、11月17日・18日の両日に、大曲交流センターを会場に、絵画・写真・工芸展を中心とした「大仙市芸術祭」が開催され、芸術文化協会会員の相互交流のほか、多くの市民に作品を鑑賞いただいております。

また、10月20日には市民短歌大会、11月25日には市民俳句大会をそれぞれ開催し、俳句大会では市内の中学生にも投句を呼びかけ、過去最多の62句の投句をいただいております。

5月12日から市内8カ所で開催した出前民謡「ふるさと民謡めぐり」につきましては、11月25日の中仙地域での開催をもって全日程が終了し、延べ2,000人を超える方々にご来場いただいております。

なお、この事業の実行委員会代表を務める<sup>さとうしょうげつ</sup>佐藤昌月さんが、秋田県の民謡普及・発展に多大な功績を残されたことが評価され、11月2日に秋田県文化功労章を受章しております。

総合市民会館事業につきましては、11月11日に大曲市民会館を会場に、本市出身の世界的バリトン歌手、<sup>こまつひでのり</sup>小松英典さんのリサイタルが、フルート奏者<sup>やまがたゆみ</sup>の山形由美さんをゲストに迎え開催され、盛会裏に終了しております。

スポーツ振興につきましては、第34回全県500歳野球大会が、9月22日から26日までの5日間、神岡球場を主会場に市内8地域全18会場で開催され、全県各地から過去最多となる177チームが参加し熱戦が繰り広げられたところであります。

また、市内各スキー場のオープンについては、降雪状況により事前に仮オープンする場合がありますが、協和スキー場が12月22日、大曲ファミリースキー場が同月23日、大台スキー場が同月25日を予定しており、本年度も児童生徒が雪国のスポーツを通して体力づくりが行えるよう、市内の小学生、中



学1・2年生及び養護学校生を対象に、無料のリフトシーズン券を配布することとしております。

なお、民間のノウハウを活かした安全で利用者に選ばれるスキー場運営を目指して、3スキー場全てに指定管理者制度を導入しており、近年は、近隣のスキー場と比べても収支や誘客数などに良い成果が見えてきております。

文化財保護につきましては、6月から行ってきた大曲地域大川西根地区の成沢遺跡の現地発掘調査が9月14日に終了しております。この遺跡は昭和48年の圃場整備の際に発見され、工事後の昭和49年に行った緊急的な概要調査では、同じ場所で縄文時代から弥生時代の遺物が見つかるなど、重要な遺跡であることが確認されておりました。

本年度の調査は、文化財保護法に基づく保存を目的として、前回の概要調査を補完する遺跡の範囲確認調査として実施しており、調査の結果、開発行為による攪乱があったことや、県内では極めて出土事例が少ない縄文時代の複数の太い柱や石柱などが新たに確認されております。今後は、地域の方々とも連携しながら、遺跡を紹介する案内板の設置や出土した遺物の展示方法などを検討し、遺跡の保存と活用を進めたいと考えております。

最後に、平成25年度当初予算編成について申し上げます。

来年度は、現在進められている大曲通町地区市街地再開発事業の中心となる病院棟の建築工事が完了予定であることなどから、現時点の推計で、一般会計における平成25年度当初予算額は500億円程度となり、合併以来、最大規模の予算になるものと見込んでおります。

その一方で、合併後の財政的な優遇期間である合併特例期間が残り2年となり、平成27年度以降に地方交付税等の大幅な削減が予定されるなど、今後は一層の行財政改革が必要になるものと考えております。

このような状況を踏まえ、来年度の予算編成にあたりましては、職員一人ひとりが市の置かれている厳しい状況を改めて認識し、職員一丸となった歳出見直しを行うとともに、限られた財源の中で最大の効果を発揮していくため、事業を所管している各部局の創意工夫を最大限に活かした編成作業を進めてまいります。

そして、既存事業の見直しなどによる「選択と集中」を徹底するほか、行政コストの縮減や様々な財源対策に取り組むなど、新たな施策事業に振り向ける財源確保を図り、引き続き、経済・雇用対策、地域医療といった市が直面する諸課題に迅速に対応していくとともに、総合計画の推進に係る様々な事業を着実に実施していくこととしております。

また、予算編成の重点ポイントとして、「市民ニーズや地域情勢を的確に捉えたきめ細かな施策の推進」、「合併後最大と想定される当初予算規模を踏まえた編成作業」、「子育て・教育・地域医療・雇用・農業振興・防災といった重点施策の推進」、「合併特例期間終了に向けた取り組みの強化」、「部局のマネジメント強化及びスクラップ・アンド・ビルドの徹底」の5項目を定め、これに従った編成作業に取り組んでまいります。

以上、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況をご報告申し上げましたが、今後とも市民並びに議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げまして、招集のあいさつと諸般の報告とさせていただきます。